

## 論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Factors of non-responsive or lost-to-follow-up Japanese mothers during the first year post partum following the Japan Environment and Children's Study: a longitudinal cohort study

和文タイトル: エコチル調査への参加母親を対象とした出産後1年間での未回答および追跡不能の要因: 縦断的コホート研究

ユニットセンター(UC)等名: 富山UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: BMJ Open

年: 2019 月: 11 巻: 頁:

筆頭著者名: 城川 美佳

所属UC名: 富山UC

目的:

出産後1年間に実施された2回の質問票調査の回収状況を用いて、出生コホート研究の追跡不能に関連する要因を調べた。

方法:

エコチル調査参加妊婦のうち、単胎、生産、初回参加の93,417件を対象とした。出生後6か月時と1歳時の2回の質問票の回答状況から4群に分類し、母親の要因(年齢、社会経済状況、既往歴、里帰り分娩、出産後の喫煙および飲酒、出産前後の身体的・心理的健康)、児の要因(出産時の状態、主たるケア者、兄弟の数)、母親のパートナーの参加状況を独立変数としてロジスティック回帰分析を用いて検討した。

結果:

分娩後の体調、兄弟の数、主たるケア者、パートナーの参加は2回の質問票両方の回収に関連していた。妊娠中の不安は、6か月時調査での未回収と関連していたが、1歳時調査での未回収とは関連していなかった。児の身体的異常は両質問票とも関連していなかった。脱落群に対して、再開群で回収との関連要因はなかった。2人以上の兄弟とパートナーの消極的参加は中止群の増加と関連していた。母親の健康状態、兄弟の数、児のケア者、パートナーの積極的参加、妊娠中の不安などの要因は、継続群の増加に関連していた。

考察:(研究の限界を含める)

本研究では、エコチル調査の参加母親のパートナーの参加状況を検討した。積極的参加パートナーはエコチル調査を理解していると考えられ、そのため参加者の追跡不能の減少と関連したと考えられる。一方、本研究では消極的参加パートナーは、追跡不能の増加との関連が見られた。本研究の結果から、調査実施中に参加者の関係者に理解を促すことで脱落を防ぐ可能性あることを示している。

本研究には、a) 追跡期間が1年と短期間であること、b) エコチル調査参加者パートナー全てがエコチル調査への参加依頼を受けているわけではない、という2点で研究の限界がある。

結論:

質問票の回収状況には、参加者のパートナーの関心と理解に関連している可能性がある。また、回収状況には参加者の身体的状態と生活状態に関連している。コホート研究において質問票調査での追跡不能を減らすには、研究参加者の研究目的に対する理解と参加動機に影響される可能性があると考えられる。